

みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市 ～長く暮らし続けられるまちへ～



市長と語ろう会（2022年度下期）

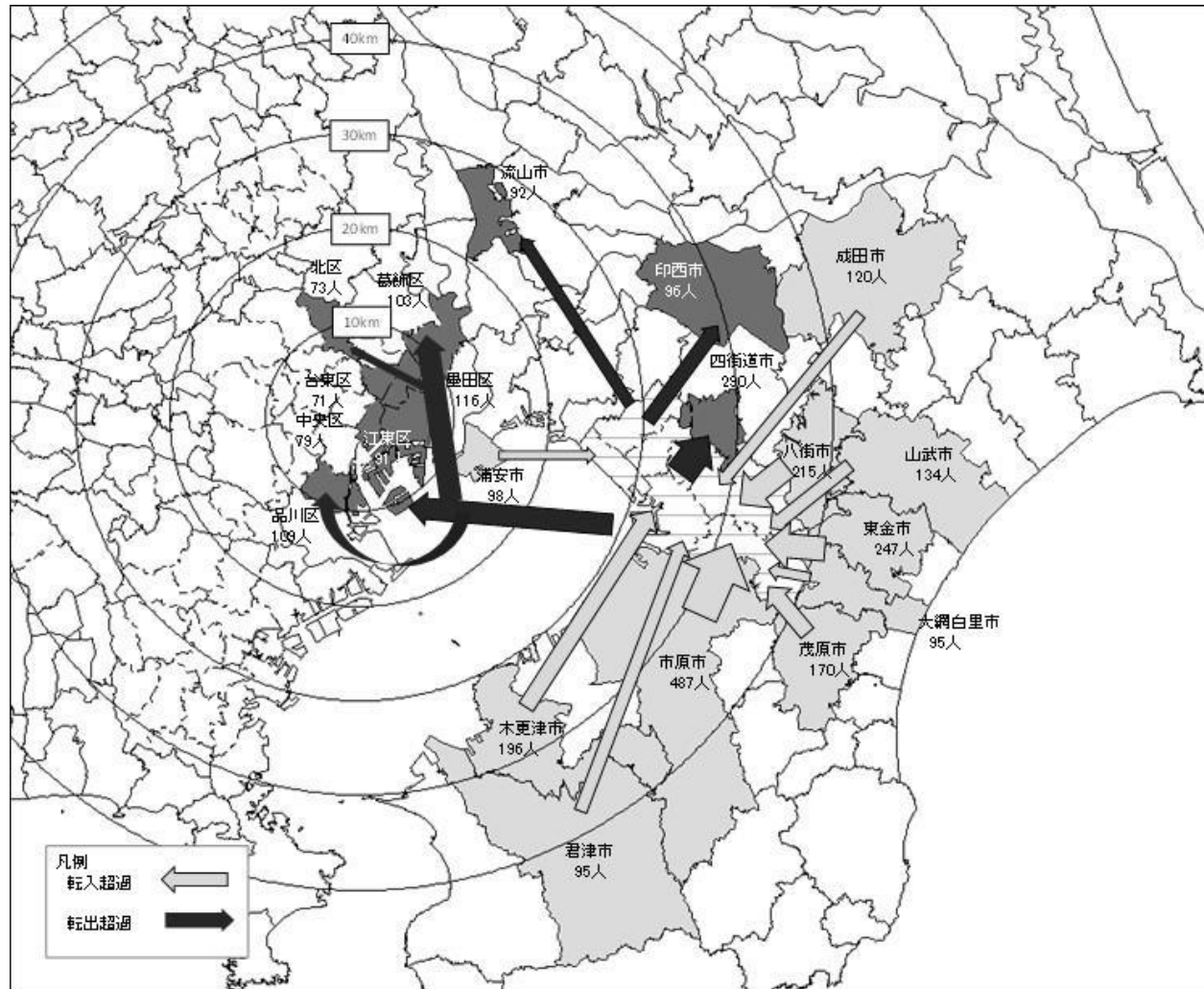


千葉市を取り巻く状況①

令和元年の千葉市の状況

本市への転入は県内中心で、主に本市以東、以南の都市からの転入が多い

主な転入超過・転出超過の状況



◆ 主な転入超過

市原市	+487人
東金市	+247人
八街市	+215人
茂原市	+170人
山武市	+134人
成田市	+120人

◆ 主な転出超過

四街道市	▲290人
墨田区	▲116人
品川区	▲109人
浦安市	▲98人
印西市	▲96人
流山市	▲92人

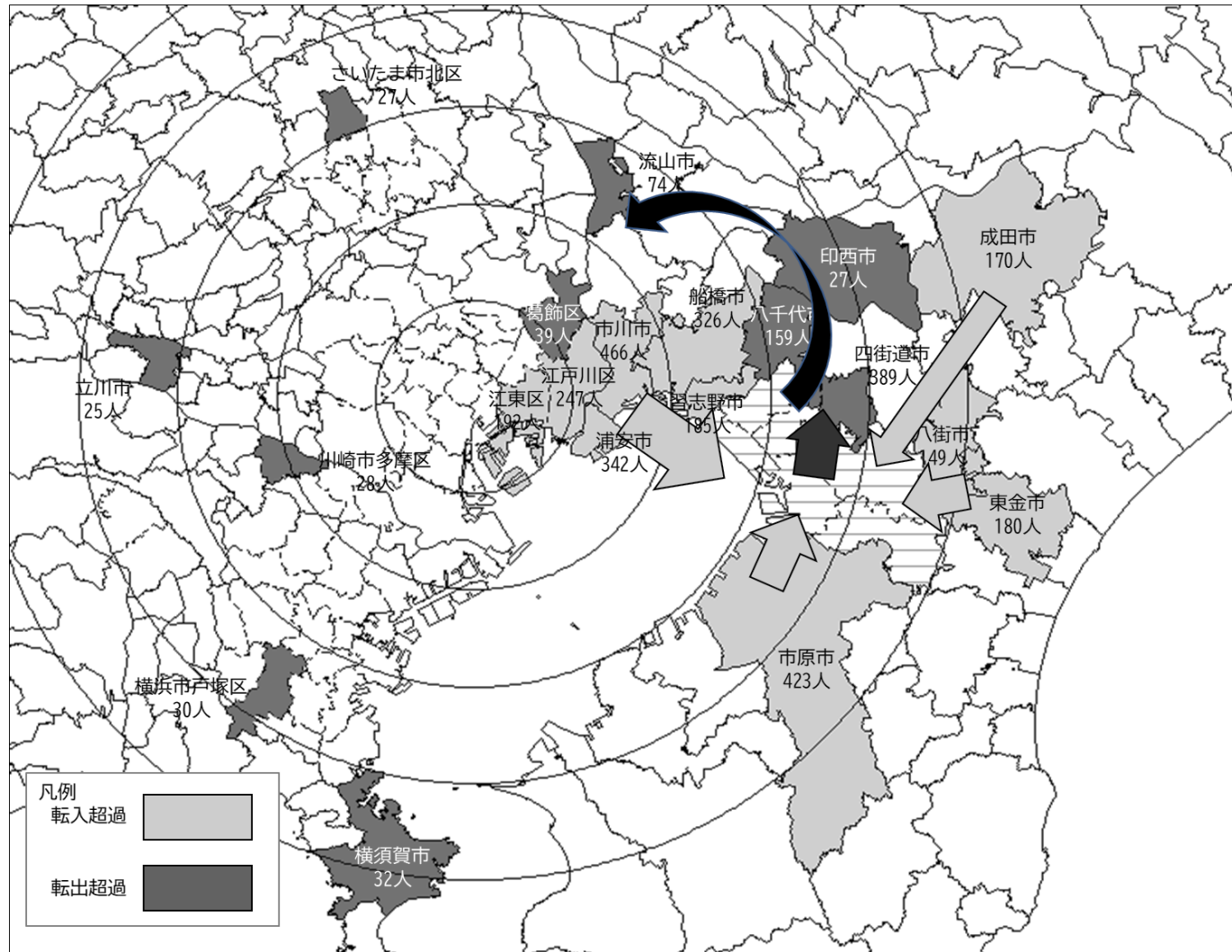
資料：令和元年(2019年)住民基本台帳移動報告（総務省）

千葉市を取り巻く状況②

令和3年の千葉市を取り巻く状況

新型コロナウイルス感染症の影響で、東京都東部及び千葉県北西部からの転入が増加するなど、転入超過・転出超過の状況に変化が生じている

主な転入超過・転出超過の状況



◆主な転入超過

市川市	+466人
市原市	+423人
浦安市	+342人
船橋市	+326人
江戸川区	+247人
江東区	+192人

◆主な転出超過

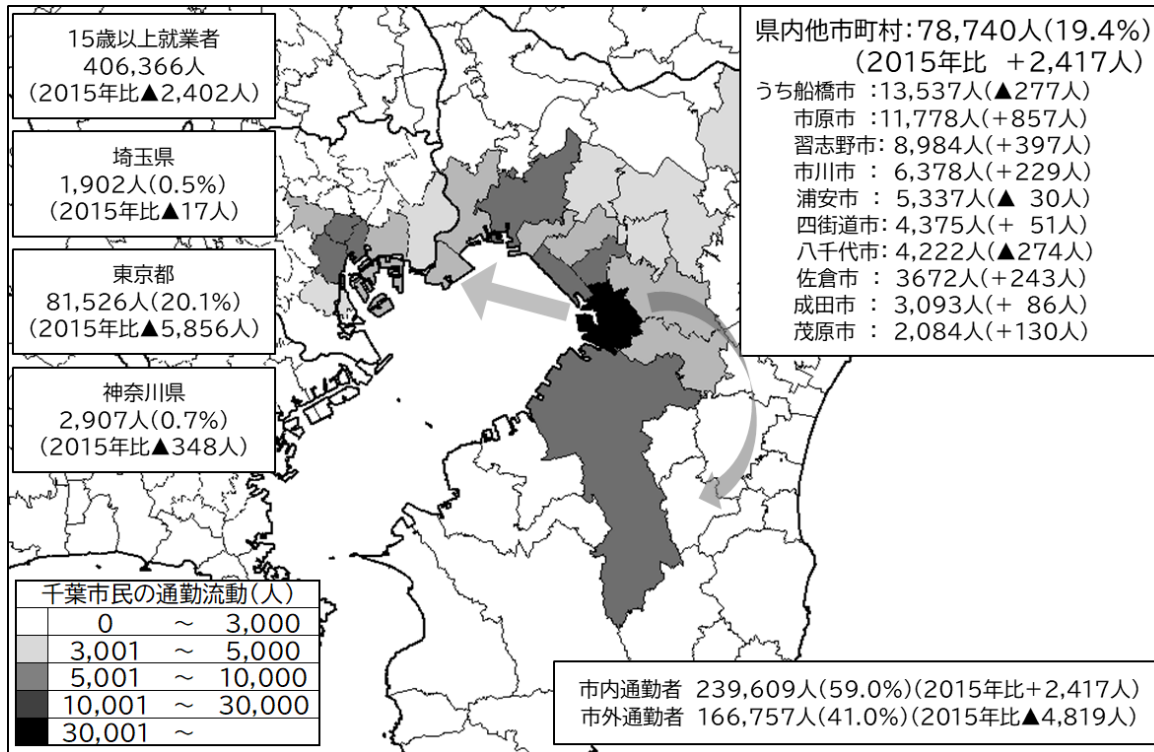
四街道市	▲389人
八千代市	▲159人
流山市	▲74人
葛飾区	▲39人
横須賀市	▲32人
横浜市戸塚区	▲30人

資料：令和3年(2021年)住民基本台帳移動報告（総務省）

千葉市を取り巻く状況③（日中の人の流れ）

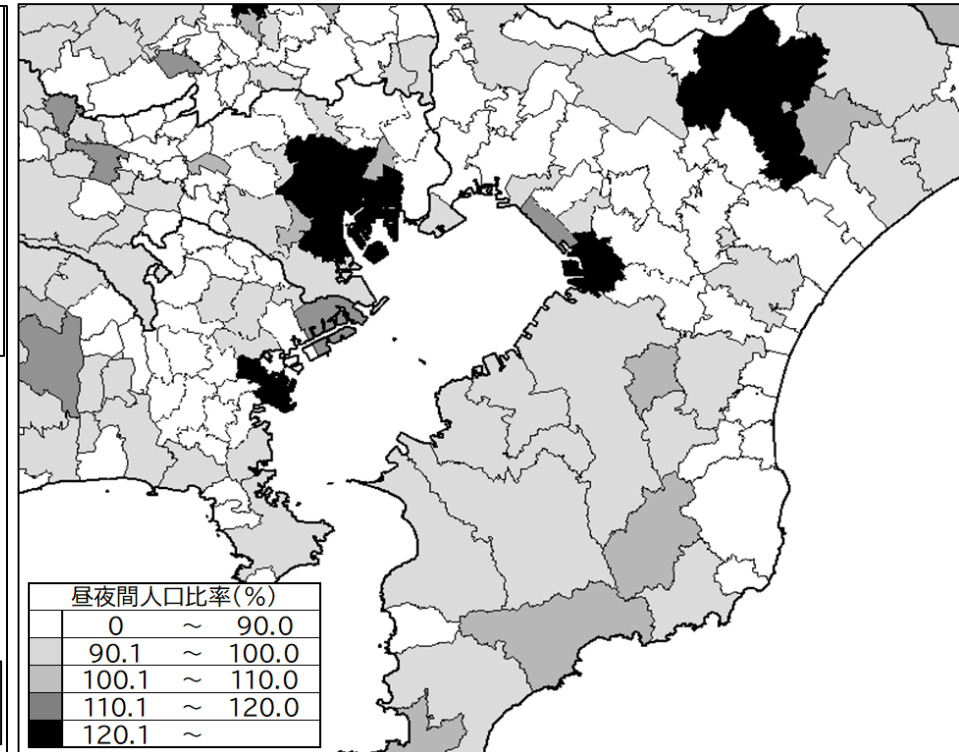
- 市民の通勤先は、**市内が59.0%**と過半数を超える一方、**東京都は20.1%**にとどまる
- 市外からの通勤者は、県内近隣市が中心（市原市、船橋市、四街道市、習志野市など）
- 昼夜間人口比率は、中央区(122.2%)、美浜区(115.8%)を中心に広域的な雇用の場を提供、**市全体では98.1%**と首都圏政令市で最も高い

千葉市からの通勤流動（2015-2020年）



資料：平成27年、令和2年（2015、2020年）国勢調査（総務省）

東京圏の昼夜間人口比率(2020年)



資料：令和2年（2020年）国勢調査（総務省）

千葉市を取り巻く状況④ (2021年の大きな変化)

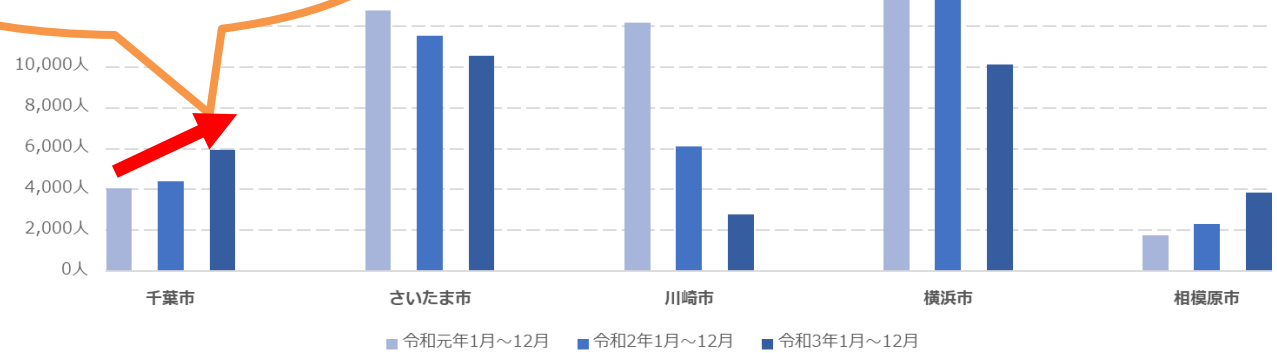
テレワーク普及等により、東京から千葉市に移り住む人が増加！

■首都圏5政令市 転入超過数の推移

- ・横浜、川崎、さいたまが転入者数減少の中、千葉市は増加傾向！
- ・2021年市町村転入超過数 県内トップ！

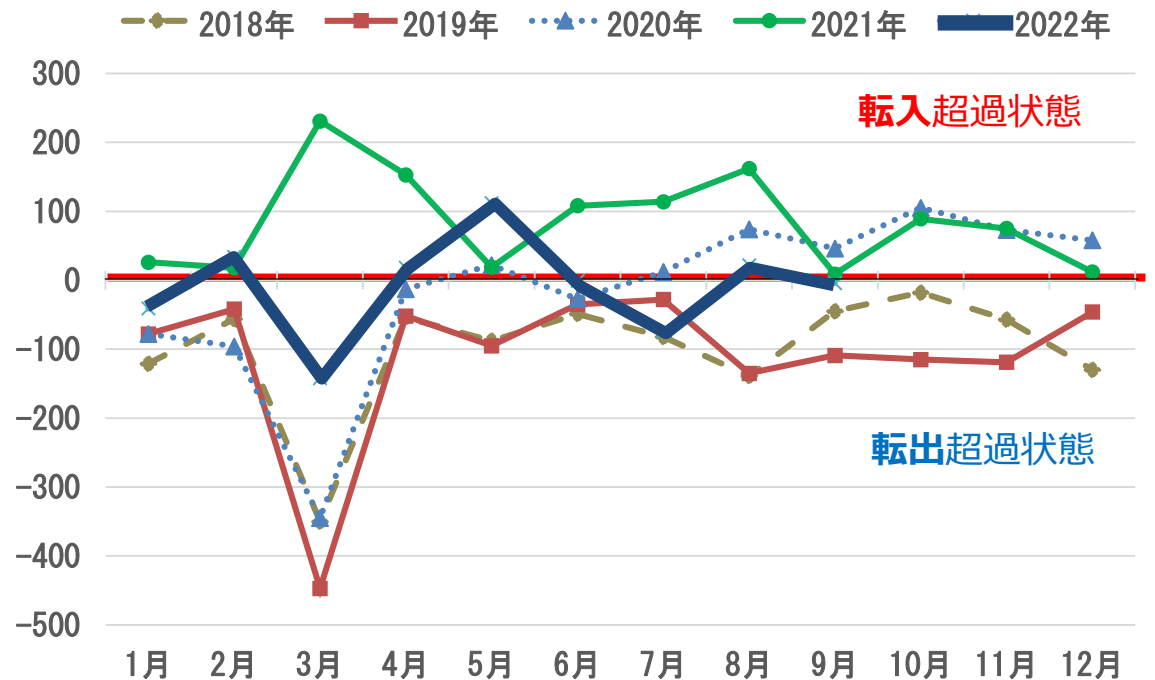
2021年
5,920人の転入超過!!
(全国で6番目に多い)

出典：各市推定人口動静



■千葉市⇔東京都の 転入出者数推移

- ・これまで一貫して転出超過であった傾向に変化
- ・2021年、東京都から千葉市へ1,061人の転入超過
- ・2022年は9月時点では転出超過だが、超過幅はコロナ禍以前よりも小さく、引き続き動向を注視する必要がある。



出典：千葉市

千葉市を取り巻く状況⑤ (千葉市に転入した理由)

□ 東京都からの転入者アンケート

(調査時期2022.2.1~2.28 対象者3,000人 回収率28.8%)

千葉市への主な転入理由は、

「雇用」「住環境」「都市機能(交通・道路ネットワーク、買い物などの利便性)」「身近な緑・環境」など

◆ コロナ禍を転機とした居住地選択に関する価値観の変化

- | | |
|-------------------------------|-------|
| ① 在宅時間が長くなりより良い住宅環境を求めるようになった | 36.5% |
| ② テレワーク等により交通の便を最重要視しなくなった | 26.5% |
| ③ 自然豊かな場所がよいと思うようになった | 23.6% |
| ④ 親族と近い距離に住む方がよいと思うようになった | 23.1% |
| ⑤ より人口密度の低い郊外へ居住したいと思うようになった | 16.9% |

◆ 千葉市を転入先に選んだ理由

- | | |
|------------------------|-------|
| ① 住宅条件が良好 (住宅価格、家賃、広さ) | 39.0% |
| ② 通勤・通学に便利 | 32.1% |
| ③ 親族・知人が市内に住んでいたから | 20.6% |
| ④ 日常の買い物が便利 | 13.3% |
| ⑤ 公園が充実・自然環境が豊かだから | 12.3% |
| ⑥ 電車・バス等の公共交通機関が便利 | 11.1% |

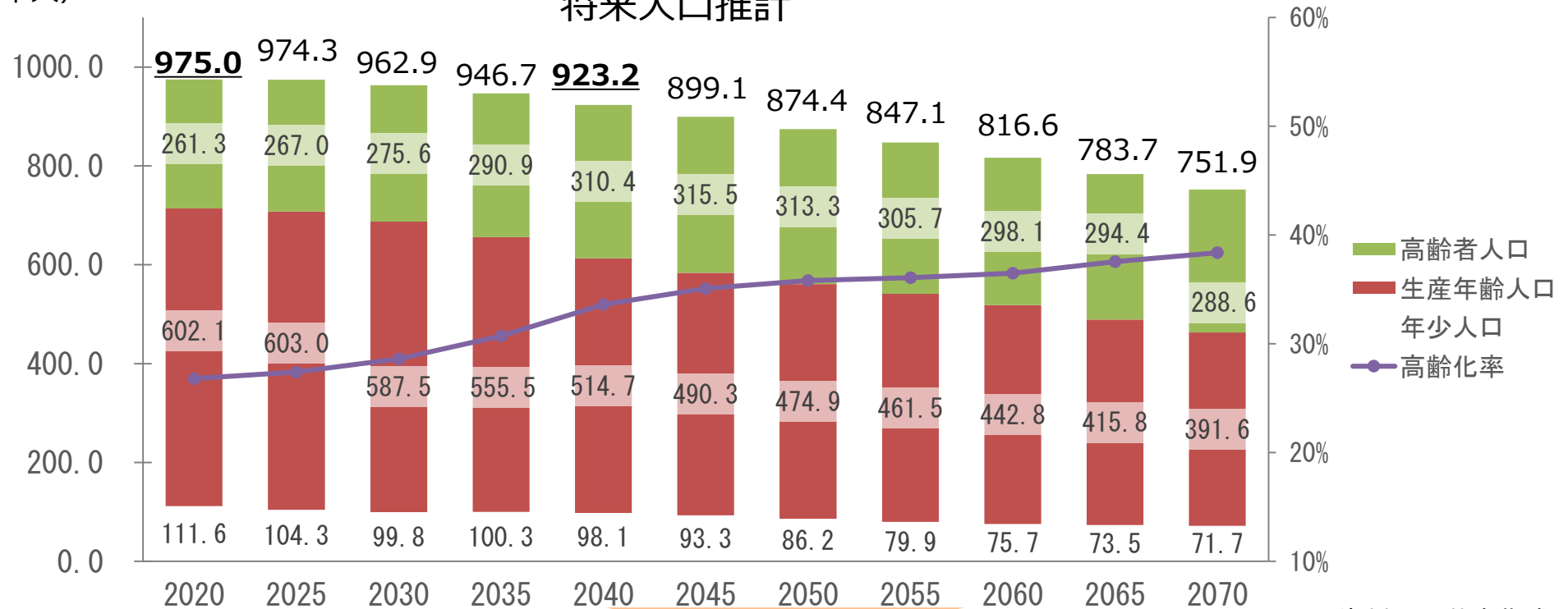


2040年を展望した社会変化

- 総人口は2020年代前半をピークに減少（2040年は2020年比▲51.8千人）
- 年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15-64歳）は継続的に減少
- 高齢者人口（65歳以上）は継続的に増加（2040年は2020年比49.1千人増）

(千人)

将来人口推計



資料：千葉市作成

対応すべき課題

- ✓ 人口密度の維持、空き家・空地の有効活用、公共施設・インフラの適切な維持管理等
- ✓ 多様な人材が活躍できる環境づくり、テクノロジーの活用による生産性向上・働き方改革
- ✓ 年齢にかかわらず健康で活躍できる環境づくり
- ✓ 希望する者が安心して結婚し、出産・子育てができる環境の充実

現状分析のまとめ

(1) 千葉市は、圏域の
中心都市・拠点都市

(2) 千葉市の外側では、
既に人口減少が
始まっている

(3) コロナ禍で
ライフスタイル重視の
価値観が広がる
→ 東京からの転入超

(4) これまでの成長モデルからコロナ時代の新しい戦略が必要

◆ 千葉市・新型コロナ時代の新戦略

- 内房・外房からだけでなく東京など幅広い地域からの転入を誘引
- 産業の「稼ぐ力」を育成、商業の中心、就業の場としての機能を継続的に発揮し、圏域経済をけん引
- “ちば”でしかできないライフスタイルを提示、圏域全体の人口を維持・増加
- 千葉市の特性である「雇用」、「住環境」、「都市機能」（交通・道路ネットワーク、買い物などの利便性）、「身近な緑・環境」などを磨き上げる。
- 長く暮らし続けられるための子育て・高齢者福祉の充実（福祉を経済で支える）

身近な緑・環境①

居住地選択の大きな要素。緑と水辺・海辺の保全と活用を図る

都市公園への民活導入によるリニューアル

- 稲毛海浜公園では、都市型ビーチと滞在型機能を段階的に整備中。ウッドデッキが2022年4月にオープンし、夏に公園プールを改装
- 千葉公園、稲毛海浜公園の再整備（次頁）



緑と水辺の活用と充実・河川環境の保全と活用

- オオガハスの開花70周年を迎え、旧緑地植物実験所でハスの保全に携わる団体の皆様と連携強化。市民協働を進め、各区でのオオガハスの小さな鑑賞拠点づくり、ゆかりの都市とのネットワーク強化を検討
- 花見川において、花島公園お花見広場付近にカヤックができる環境整備や、民間事業者との連携による花見川の魅力向上に資する施設整備を検討するなど、河川を活用したまちづくりを推進。他河川の利活用についても、検討を進める。



身近な公園のリフレッシュ推進

- 身近な公園の安全性等を確保するため、老朽化した遊具等の更新や出入口等のバリアフリー化を実施。
- 公園トイレについては、快適性の向上のため、便器の洋式化などの改修を推進。



身近な緑・環境②

都市公園への民活導入によるリニューアル(千葉公園)

千葉公園の再整備

- 千葉公園は、開園から60年が経過し、多くの施設の老朽化が進んでいる
- 千葉公園の更なる魅力向上や、千葉駅北エリアのまちづくりに寄与するため、民間活力を導入した施設のリニューアルを進め、野球場跡地に芝生を敷き詰めた空間を創り出し、民間投資により、飲食・物販施設やサイクルスポーツが楽しめるパンプトラックを整備



千葉公園再整備の完成イメージ



整備イメージ図

身近な緑・環境③

都市公園への民活導入によるリニューアル(稲毛海浜公園)

稲毛海浜公園のリニューアル

- 民間活力を導入し、稲毛海浜公園をリニューアル
- 白い砂浜、芝生のバーベキュー場、グランピング施設、海へ延びるウッドデッキ等を整備
- 公園管理費の低減（20年間で約38億円）と使用料収入の増（20年間で約10億円）



身近な緑・環境④

地域の生活環境の改善に向けた取組

「千葉市再生資源物の屋外保管に関する条例」の制定

スクラップヤードから生じる様々な問題

市内に数多く存在している再生資源物の屋外保管場（スクラップヤード）では過剰な再生資源物の堆積により

火災、汚水の流出、騒音・振動

などの様々な問題が発生

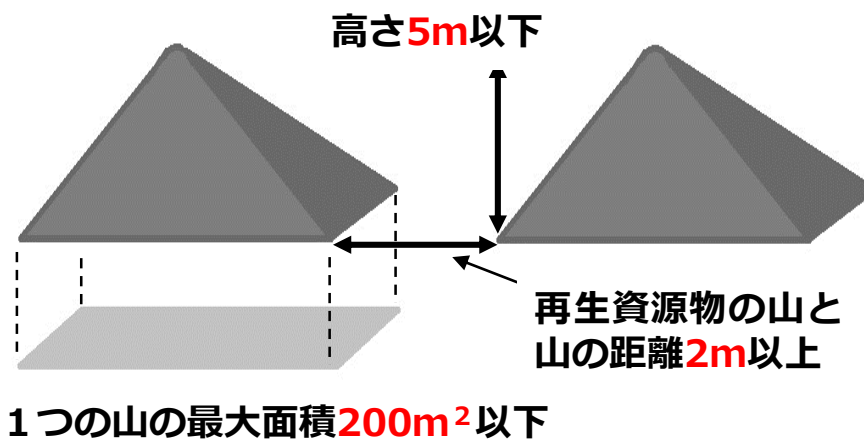


スクラップは一見廃棄物に見えても、資源としてお金を出して取引されているため、廃棄物処理法などの既存の法令ではスクラップヤードを直接規制することができない。

立地基準や罰則を盛り込んだ新しい条例の制定（2021年11月1日～）

- ・ 設置に市の許可が必要
- ・ 立地基準（住宅等から100m以上）
- ・ 保管基準（高さ制限、山と山の距離等）
- ・ 命令違反に対する刑事罰(懲役・罰金)などを定めた

過剰な堆積や火災の発生、油の流出、住宅に隣接する保管場からの騒音・振動などを防止



雇用創出

「雇用」は最大の福祉。働く場所があることが拠点都市としての成長の前提

官民連携方式で産業用地を確保

- 千葉市方式の官民連携によりスピード感を持って整備を促進
- 開発事業者、金融と市が一体となった立地活動で早期の分譲
- 民間事業者から産業用地整備支援事業の提案を募集

立地需要に対応するためのオフィス環境を創出

- 企業立地の需要を満たすオフィスが不足。環境対応したオフィスを誘導
- オフィスビル合同内覧会を実施（工業団地、千葉都心地区・幕張エリアなど）

企業立地の支援

- 千葉市企業立地促進事業補助金
 - 取得した固定資産税・都市計画税相当額
 - 雇用奨励補助（スタートアップ型・フォローアップ型）
 - 法人市民税・事業所税相当額、賃借料など
- 千葉市企業立地促進事業補助金を活用した2件の大型企業立地が実現
 - ・株式会社インスマタル（千葉土気緑の森工業団地）
 - ・株式会社Peace Deli（ネクストコア千葉誉田）



経済・都市政策①

雇用を創出し、都市機能を磨き上げるために

幕張新都心まちづくり将来構想

- これまでの歴史・あゆみを踏まえ、概ね20～30年後の将来を見据えたまちづくりの方向性を示す「幕張新都心まちづくり将来 構想」を策定。
- 幕張新都心でしか見ることができない新たな文化やエンターテインメントの創出、これからの時代にも対応した新しいMICEのあり方の提示、エリア全体での一体感を向上させるためのモビリティサービスの充実などを取組方針として位置付け。
- 「職・住・学・遊」の各機能の交流を促進するための地域資源の柔軟な活用や、持続可能なまちづくりに向けた、多様な主体の連携なども位置付けた。



産業利用のための土地利用規制の見直し

- 市内の高速道路のIC周辺には開発余地のある地域があり、最近の地域拠点の集約、物流加工拠点の立地の動きに合わせ、土地利用規制の緩和を検討。新たな企業立地や市内企業の拠点拡充を支援して、雇用創出につなげていく。

経済・都市政策②

2026年千葉開府900年にむけて

千葉開府900年に向けた取組を推進

- 千葉開府900年事業の積極的かつ円滑な推進のため、2023年度に様々な主体で構成する実施組織を設立予定
 - ・（仮称）千葉開府900年記念事業推進計画を策定
- 千葉開府900年に向けたPR・機運醸成



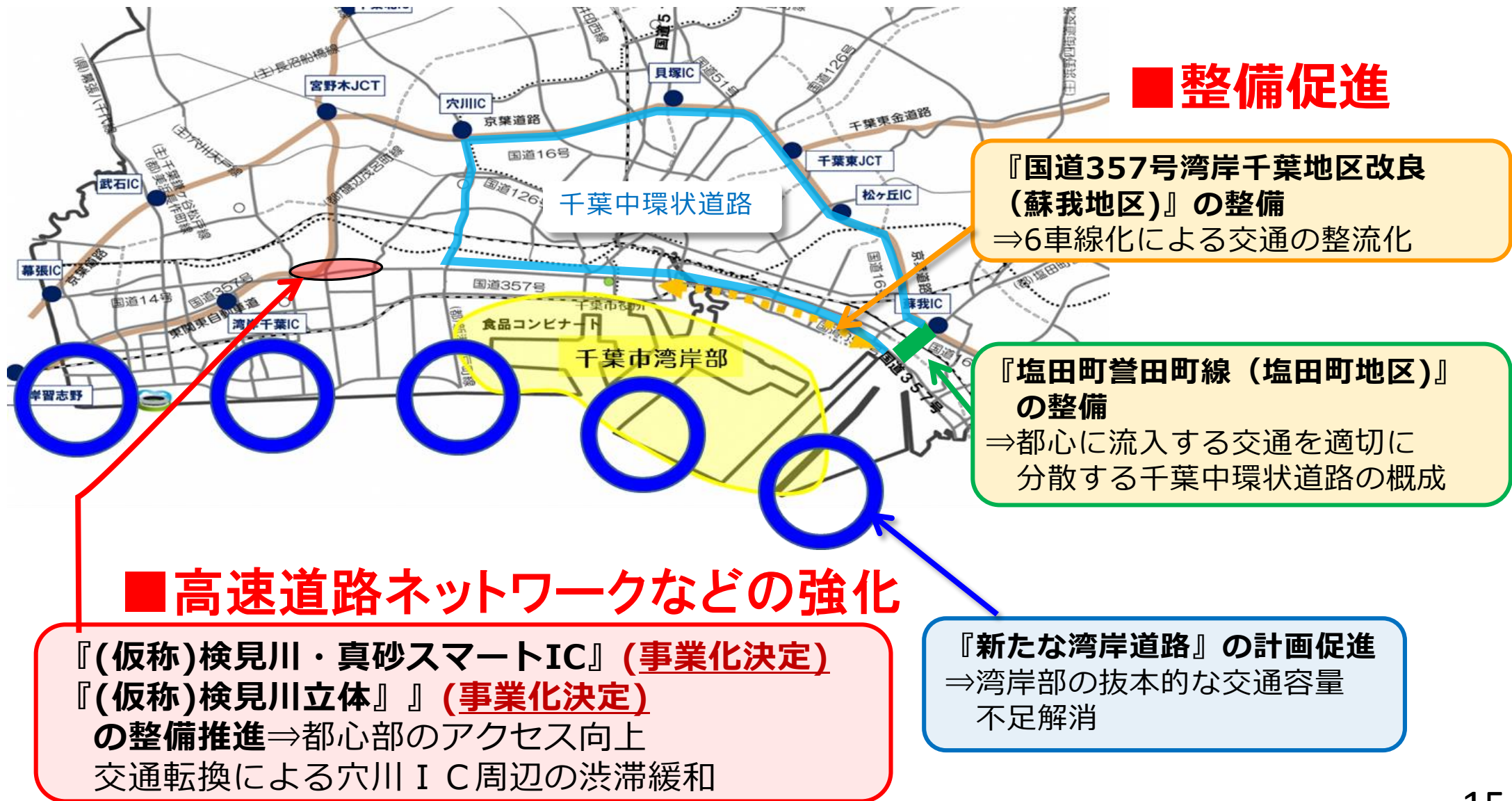
音楽フェスとアクションスポーツを活かしたまちづくり

- 日本有数の音楽フェス「JAPAN JAM」「ROCK IN JAPAN」「SUMMER SONIC」や、アクションスポーツの世界最高峰の競技大会「X Games」の開催で千葉市の文化・経済振興を推進
- 地元で活動するバンドなどへの支援や、アクションスポーツを楽しめる場所の整備で、文化振興や新たなスポーツ文化の裾野の広がりを促進



都市機能① (道路ネットワーク)

市内渋滞の解消と更なる交通アクセス向上への取組



都市機能②（公共交通ネットワーク）

持続可能な公共交通ネットワークの形成

高齢者の免許返納や運転手不足の深刻化等、近年、移動手段を確保することが重要な課題となっていることから、地域の現状を把握している住民主体の検討による持続可能な公共交通ネットワークの形成が必要

新たな地域公共交通導入に向けた社会実験

○公共交通不便地域における施策検討

市内には公共交通不便地域があることから、新たな移動手段の導入検討が必要

公共交通不便地域での施策を検討する上で、モデル地区を緑区高津戸町北部エリアに設定

デマンド型交通などの新たな地域交通の導入に向けた社会実験を実施予定

○グリーンスローモビリティ導入

【2020年度】

スポット的に公共交通へのアクセスが困難な地区においてグリーンスローモビリティ導入の実証調査を実施（若葉区桜木地区）

【2022年度】

グリーンスローモビリティの導入検討に向けた実証調査

- ・ 若葉区桜木地区にて2022年10月から長期の実証調査を開始
- ・ 2022年10月～11月にかけて各地区2週間程度の実証調査

こてはし台地区	（花見川区）	10/24～11/ 7
都賀の台地区	（若葉区）	10/ 2～10/20
幕張ベイタウン地区	（美浜区）	11/13～11/27



実証調査状況（2020年度）

都市機能③-1（公共空間を活かしたまちづくり）

自動車中心からひと中心のまちづくりへの転換

ウォーカブル推進

- 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成による都市の再生を図るため、「自動車中心」から「ひと中心」のまちづくりに転換し、多様な価値観・多様なライフスタイルにおける道路・公園など公共空間の利活用の可能性を検討
- 下記のエリアの他、千葉都心（千葉駅西口駅前、千葉公園通り）でも実施

【西千葉学園通り

“みんなのみちばた”プロジェクト】

歩道の植栽帯にみちばた空間を創出



歩道に木材のD I Yベンチを設置して滞在空間を創出

【幕張豊砂プレイスメイキング実証実験】

まちなかにリビングのような憩いの場を創出



マリスタジアムの人工芝を再利用して滞在空間を創出

都市機能③-2（公共空間を活かしたまちづくり）

既存資源を活用して地域課題を解決する公民連携まちづくり

リノベーションまちづくり

- 官民の遊休不動産等の既存資源を活用
- 補助金などを使わない自立した事業を民間主導でスピーディーに創出
- コミュニティ醸成、地域価値の向上、地域課題の解決、地域経営の改善に寄与
- まちづくり人材の持続的輩出を目的とした「リノベーションスクール」を令和元年度から開催
- スクール生による、空きガレージを活用したコミュニティスペースの運営、遊休地を活用したマルシェや夏祭りなどのプロジェクトを開催
- 千葉駅西口駅前からスタートし、現在は駅西エリアで集中的に展開しており、今後は千葉駅周辺全体に推進

さざなみ橋たもと「うらにわ夏祭り」
2021年スクール対象地



裏ちば みんなの広場「ミツケ」
2020年スクールから誕生したプロジェクト



都市機能④（地域資源を活かしたまちづくり）

住宅団地の活性化と地域コミュニティの形成

花見川団地を拠点とした地域生活圏の活性化

○2022年5月、千葉市、UR都市機構、(株)良品計画、(株)MUJIHOUSEの4者で連携協定を締結。

○MUJI×URリノベーション住戸、自動運転バス実証実験、花見川カヤック社会実験、商店街マルシェなどを実施。今後、商店街リノベーションなど随時、施策を展開。

【連携協力事項】

- ①多様な世代が安心して住み続けられる環境整備に関すること
- ②花見川団地商店街の活性化に関すること
- ③地域で活躍する人材の発掘や活動支援に関すること
- ④地域資源の活用に関すること
- ⑤大学連携に関すること
- ⑥情報発信に関すること
- ⑦その他必要と認めること



自動運転バスGACHA実証実験（終了）



花見川カヤック社会実験



商店街リノベーションイメージ

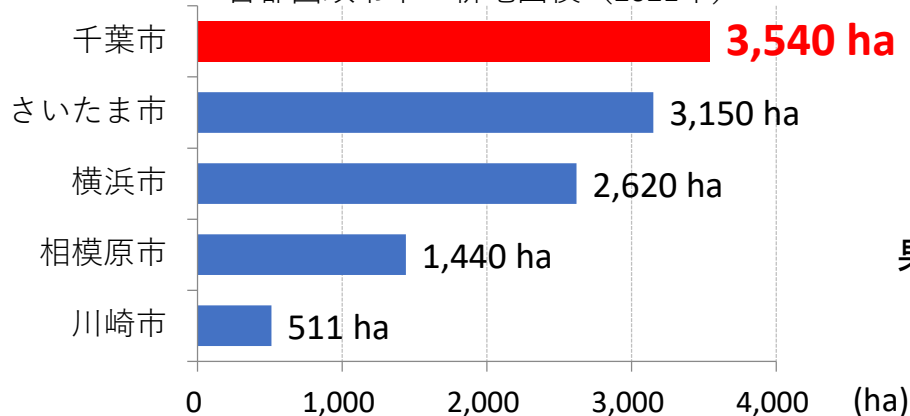


農業の成長産業化

豊富な農地！

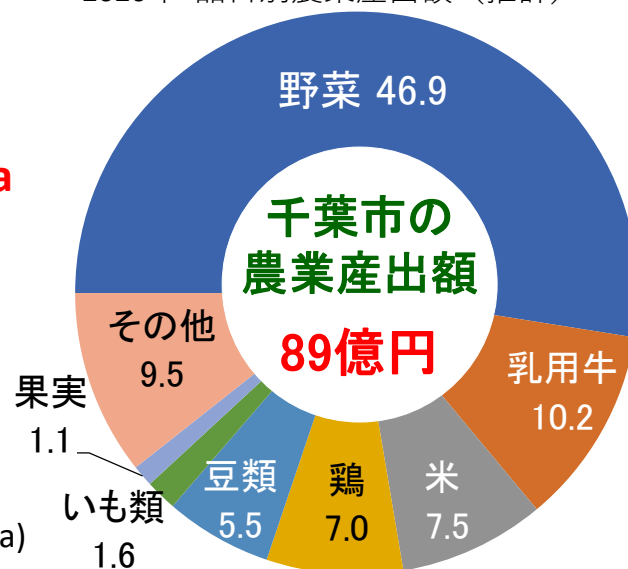
耕地面積：**3,540ha**
 (首都圏内政令市中**第1位**)

首都圏政令市の耕地面積 (2021年)



温暖な気候を活かした生産環境！

2020年 品目別農業産出額 (推計)



【参考】
 農業産出額ランキング (2020年)

順位	都道府県	産出額
1	北海道	12,667億円
2	鹿児島県	4,772億円
3	茨城県	4,417億円
4	千葉県	3,853億円
5	熊本県	3,407億円

農業の成長産業化への支援！

参入検討から生産開始、事業拡充、販路開拓まで
 きめ細かな本市独自の支援策の実施！



支援事業の一例

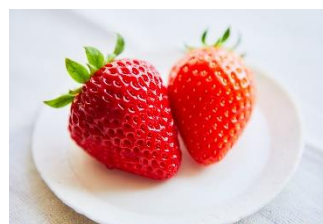
【農業生産力強化支援事業】

- ・法人等の農業参入を促進するため、高収益な生産体制の確立に必要な機械の導入や施設の整備に対して補助《農業用機械や施設整備 (補助率1/2 上限2,000万円)》
- ・2021年度から農業法人と連携しグループ参入する食品加工 及び流通業者等も対象者として拡充！！
 《施設や機械整備 (補助率1/2、上限2,000万円)》

高付加価値化と販売・PR力の強化！

千葉市の食のブランド「千」を展開！

- ・「千葉市の食を千年先へ」をコンセプトとして、2020年に設立したブランド
- ・食にまつわる16の商品、3つのサービスを認定
- ・第3回認定品は、2023年2月に発表予定！！

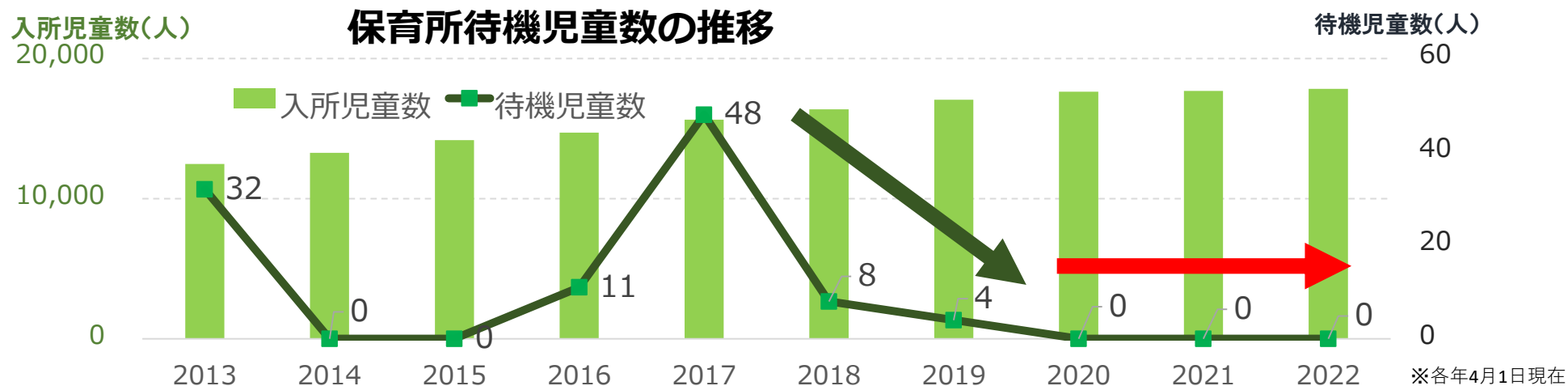


良好な育児・教育環境①

充実の子育て支援・快適な住環境(仕事と家庭の両立を支援)

保育受け皿の大幅拡充により待機児童を削減

3年連続待機児童ゼロ達成!



医療機関併設の病児・病後児保育

- ・子どもが発熱!でも仕事が……。そんな時にも安心。

産後ケア

- ・妊娠中の事前登録が可能。出産の報告を行えば、すぐに利用。
- ・妊婦の約3割が登録済み。育児不安の解消に貢献!
- ・今年度から日帰り型を開始!宿泊型・訪問型と合わせて、31事業所が利用。

保育所のみならず

子どもルーム待機児童(小学1~6年生)も解消へ

- ・民間事業者の参入促進!・施設整備の推進と委託先の多様化!

エンゼルヘルパー派遣

- ・妊娠中又は出産後、家事又は育児を手伝える方がいない家庭等にヘルパーを派遣し家事や育児をお手伝い。
- ・初回は無料!

良好な育児・教育環境②

充実の子育て支援・快適な住環境

教育施策の充実（重点項目）

・第3子以降給食費無償化

2022年1月から第3子以降、約5,000人の学校給食費を無償化し、年間で5万円程度の経済的負担を軽減

・専科教員等の重点的な配置

小学校において専門性の高い指導を行うため、英語や理科、音楽などで、一部教科担任制を推進（R4年度242人）

・小・中学校のトイレ改修（洋式化・ドライ化）

老朽化したトイレを改善するため、便器の洋式化や床のドライ化などを行い、快適なトイレ環境を整備（R6年度までに全ての市立学校での完了見込み）

不登校対策パッケージ

2022年度から2024年度にかけて、次の6つの施策を「不登校対策パッケージ」として実施し、教育相談事業の一層の整備と拡充を目指します

- (1) 教育支援センター「ライトポート」の機能拡充
- (2) スクールカウンセラーの機能強化
- (3) 教職員への啓発と研修の充実
- (4) ギガタブ（一人一台端末）を活用した登校支援【別室登校】
- (5) 教育センターの相談機能の拡充
- (6) フリースクール等との連携強化

緑豊かでのびのびと暮らせるまち

緑豊かでのびのびと暮らせるまち。



豊富な宅地と公園

首都圏内
政令市中

第1位

(出典) 大都市統計年表

子どもの将来を見据えた教育

2021年12月、「子どもの“稼ぐ力”が育つまち・千葉の実現」を目指し、子どもたちの起業家精神を育む産学官連携のちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアムを設立。

将来の産業人材を育成します！



健康・福祉①

高齢者がいきいきと活躍できる社会 障害のある人もない人も、自分らしく生活できる共生社会

地域で安心して自立して暮らせる環境の整備（主なもの）

○高齢者等階段昇降支援

階段昇降が困難な高齢者等の外出支援や、在宅復帰、家族などの介護負担軽減を図るため、階段昇降機を活用した支援を行う訪問介護事業者等に、階段昇降機の導入等に要する経費を助成

○特別養護老人ホーム整備費助成

特別養護老人ホーム等の整備を促進するため、施設の整備費用を助成
(特別養護老人ホーム200床 併設ショートステイ50床)

○重度障害者グループホーム等の整備

重度障害者を受け入れるグループホーム等への助成対象経費について、施設整備費に加えて設備整備費、初期運営費を助成

○障害者基幹相談支援センター運営

障害者支援体制の基盤強化のため、障害者基幹相談支援センターと地域生活支援拠点を統合するとともに、相談員を増員（2021年度：24人→2022年度：30人）

健康・福祉②

新病院整備のコンセプト

胎児から高齢者まで切れ目のない医療の提供

- 海浜病院が担っている周産期・小児医療の中核的施設としての機能強化に加え、急性心筋梗塞、脳卒中、がんといった超高齢社会に求められる医療需要に対応するための体制を整備

救急医療の強化

- 新生児から高齢者まで対応可能なER型救急を基本とし、地域の救急医療を担う
また、急性心筋梗塞、脳卒中、呼吸不全、整形外科疾患など、高齢者の幅広い疾患に対応すべく、後方支援診療体制を整備し、地域の救急医療を支える

がんの診療体制強化

- 高齢化に伴い増加するがん患者に対して、病状やライフスタイルに応じた治療を選択することができるよう、手術、化学療法、放射線治療を含む集学的治療を提供

災害医療の強化

- 災害発生時に診療機能を維持または速やかに復旧、多数の傷病者を受け入れる

感染対策の強化

- 新興感染症などの拡大時においても、感染症患者と一般患者それぞれに適切に対応できるよう施設を整備



新病院完成イメージ

新型コロナウイルス感染症対策①

新型コロナウイルス感染症対策事業

ワクチン接種体制

○オミクロン株対応ワクチン（11/1～ファイザー社のワクチン(BA.4-5)に切替）

対象者：1・2回目接種を完了した12歳以上の全ての方（1人あたり1回）

接種間隔：前回の接種から3か月以上

接種会場：個別接種（市内医療機関約300か所）
集団接種（市公共施設等7か所）

○小児接種

対象者：5歳以上11歳以下の方（1・2回目はセット）

接種間隔：1・2回目接種	3週間の間隔をあけて合計2回接種
3回目接種	2回目接種から5か月以上あけて1回接種

接種会場：個別接種(市内医療機関約41か所)、集団接種(千葉中央コミュニティセンター)

○乳幼児接種

対象者：生後6か月～4歳の方（3回がセット）

接種間隔：2回目接種	1回目接種から通常3週間後
3回目接種	2回目接種から少なくとも8週間経過後

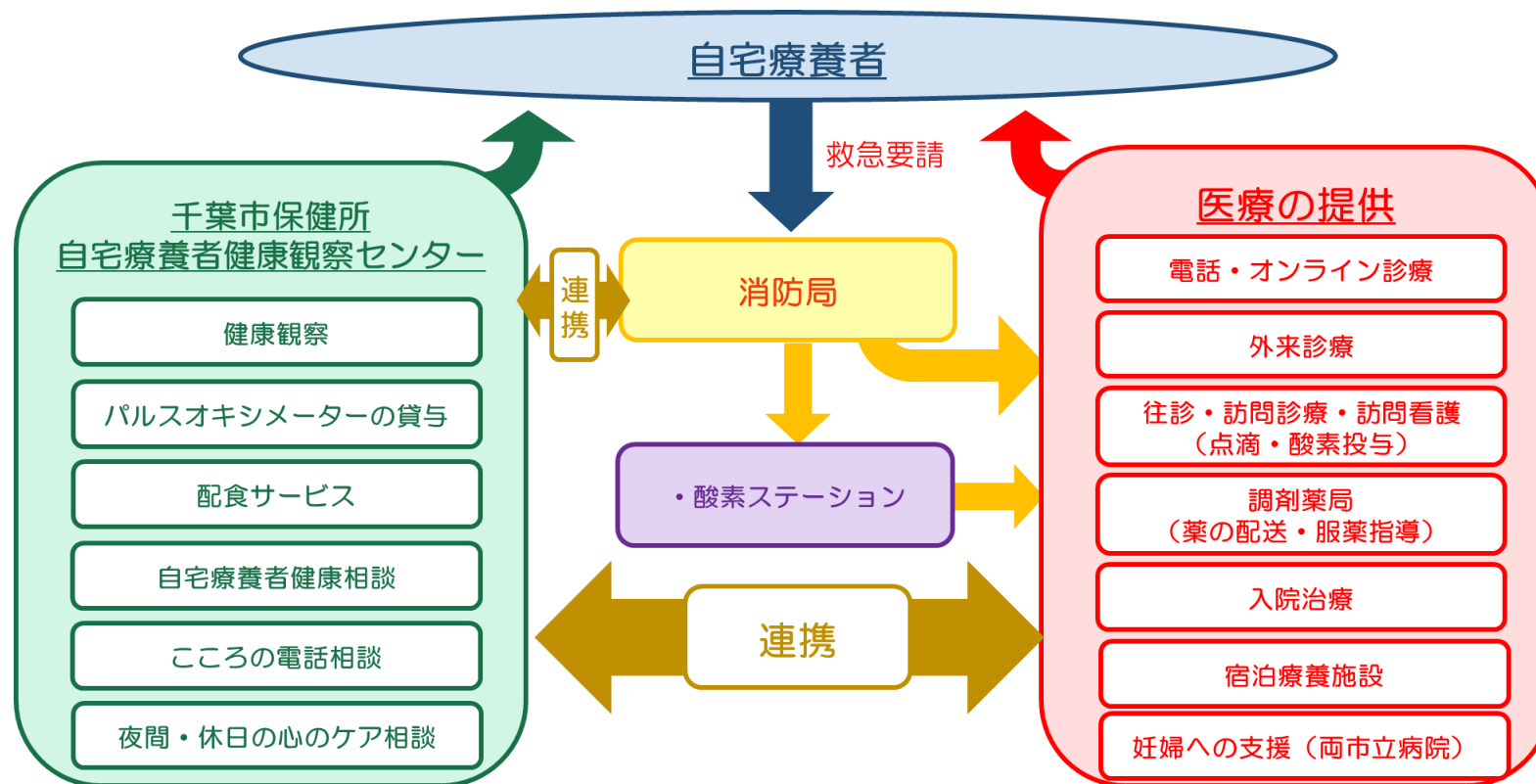
接種会場：個別接種(市内医療機関約30か所)、集団接種(千葉中央コミュニティセンター)

ワクチン接種は、決して強制ではありません。

ワクチンの安全性・有効性のほか、接種後の副反応など様々な観点から接種をご検討下さい。

新型コロナウイルス感染症対策②

千葉市の自宅療養者医療等支援体制



医療提供業務委託

自宅・宿泊療養者に対し、医師が24時間体制で往診又はオンライン診療を行える体制を整備。

医療提供体制の整備

- 病床の確保
両市立病院における専門病床の確保や感染した妊婦への体制強化 等
- 宿泊療養者施設を2か所設置
バーディーホテル千葉（120室）グランパークホテルパネックス千葉（67室）
グランパークホテルパネックス千葉内に酸素ステーションを設置（5床）

原油価格・物価高騰対策①

千葉市独自の対応策

市民生活への支援

- **下水道使用料等の一部を減免（予算額 15億8,600万円）**
幅広い世帯等を対象に物価高騰による負担を軽減するため、下水道使用料等を減免
 - ・下水道使用料：最大約3,200円/世帯を減免(基本使用料及び従量料金の4か月分)
 - ・農業集落排水使用料、し尿汲み取り手数料：下水道使用料と同程度の金額を減免
 - ・減免期間 R4.10月～R5.1月検針分
- **低所得世帯の方へ給付金を支給（予算額 69億9,800万円）**
特に家計への影響が大きい低所得世帯（住民税非課税世帯等）に対し、電力・ガス・食料品等(灯油等を含む)の価格高騰による負担増を踏まえ、給付金を支給
 - ・対象世帯数：約12万世帯、支給額 50,000円/世帯、支給日 R4.11月～順次
- **子育て世帯の方へ給付金を支給（予算額 9億3,000万円）**
中学生までの児童を養育する世帯を対象に給付金を支給
 - ・対象世帯数：約7万7,000世帯、支給額 10,000円/世帯、支給日 R4.12月～順次
- **学校給食費等の高騰分を市が負担（予算額 1億6,200万円、9,200万円）**
公立小中学校や保育所、幼稚園等を対象に、食材料費高騰分の負担軽減できるよう市が負担
 - ・市の負担：1食あたり14～21円（R4.7月～R5.3月の9か月間）

原油価格・物価高騰対策②

千葉市独自の対応策

事業者等への主な支援

○中小企業者の皆様を支援（予算額 10億8,000万円）

原材料費等のコスト増の影響を受ける中小企業者の皆様を対象に、支援金を支給

○緊急融資枠を設けて経営安定化を応援（予算額 28億6,000万円）

市内に本社のある企業等を対象に、100億円の緊急融資枠を設けるとともに、融資利用者に対して、物価高騰分の一部を支援（受付終了）

○物価高騰に直面する福祉施設を支援（予算額 2億2,000万円）

○民間保育施設等支援（予算額 6,900万円）

高齢事業所、障害事業所、民間保育施設などを対象に、光熱水費などの負担増分を支援

○街路灯などの電気料金の補助を拡充（予算額 3,400万円）

商店街や町内自治会等を対象に、街路灯等の電気料金の上昇分を現行制度に上乗せして補助

○燃料費の高騰に直面する公共交通事業者を支援（予算額 1億9,600万円）

バスやタクシー等の公共交通事業者を対象に、燃料費高騰分を支援（受付終了）

○燃料費の高騰に直面する一般公衆浴場を支援（予算額 500万円）

一般公衆浴場を対象に、燃料費高騰分を支援（受付終了）

千葉市基本計画①

～みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市の実現に向けて～

みんなで目指す未来の千葉市

みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市

- ▶本市の特性である「自然」、「利便性・ゆとり」、「拠点性・交流」を活かし、都市の活力と自然の潤いが織りなす、新たな価値が生まれるまち
- ▶本市に住まい、活動する人々が、一人ひとりの個性を活かし自分らしく活躍できるとともに、多様な主体がつながり連携することで、未来に向けて輝き続けるまち

未来のまちづくりに向けた戦略的視点

○戦略的視点① 100年先に引き継ぐ 持続可能なまちづくり

- ▶縄文から受け継ぐ「自然と共生する」精神を活かした、SDGs達成に向けた取組の推進
- ▶みんなの力を活かした、災害に強い、安全・安心なまちづくり

○戦略的視点② ゆとりを生み・活かす 創造的なまちづくり

- ▶職住近接を活かしたゆとりある暮らしづくり
- ▶成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化芸術・スポーツのまちづくりの推進

○戦略的視点③ 世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり

- ▶市民一人ひとりが属性に関わらず自分らしく活躍できる地域社会づくりの推進
- ▶「誰一人取り残さない」セーフティネットの構築

○戦略的視点④ 都市機能の集積を活かした 地域経済・社会の活性化

- ▶挑戦都市としての矜持を持ち、次の時代のトレンドを創出
- ▶雇用・商業・観光の拠点として、圏域の中心的な役割を果たすまちづくり

千葉市基本計画②

～みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市の実現に向けて～

花見川区

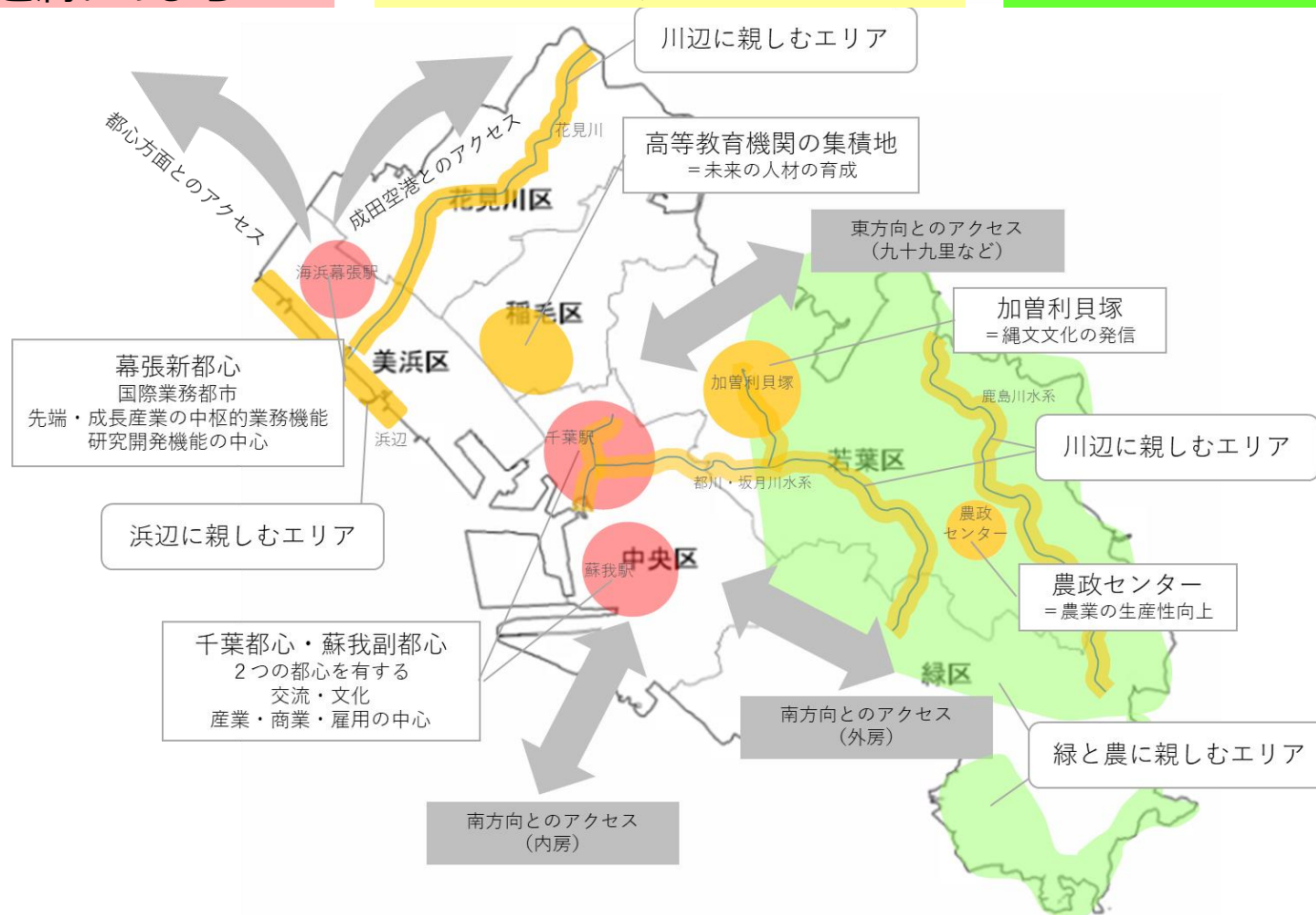
川と緑と花々に包まれた、
安らぎと潤いのまち

稲毛区

まなびと創造が脈打つ
文教のまち

若葉区

共生の原点 縄文が息づく
自然の恵み豊かなまち



美浜区

海辺を楽しみ、
世界とつながるまち

中央区

人々が行き交い
にぎわいと文化を生み出すまち

緑区

田園と調和する
広やかで快適なまち